

北海道駒ヶ岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しています。わずかな山体膨張は引き続き観測されています。

○ 概況

・ 噴煙及び熱活動（図 2）

2003 年 9 月以降見られている昭和 4 年火口からの弱い噴気が時々観測されました。噴気の状態に特に変化はありませんでした。

13 日に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しましたが、山頂火口周辺は雲のため観測できませんでした。

・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）

地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では、季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、噴火警報及び噴火予報の発表と、噴火警戒レベルの運用を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に北海道駒ヶ岳に以下のような噴火予報を発表しました。なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・ 活動状況及び予報警報事項：噴火警戒レベル 1（平常）

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

北海道駒ヶ岳の噴火予報・警報は、噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）です。

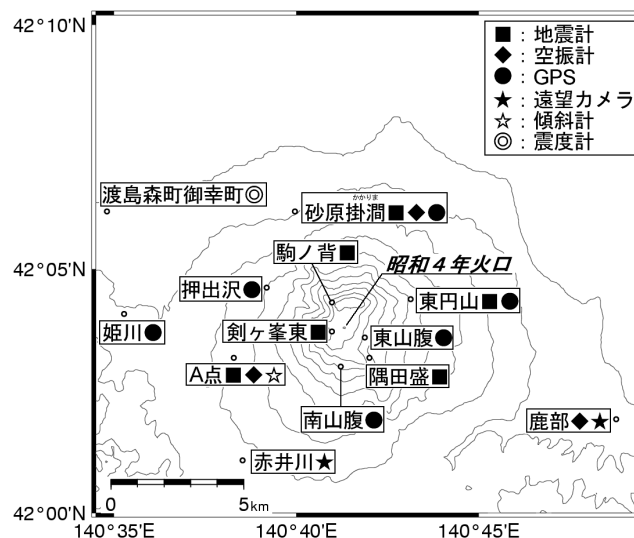


図 1 北海道駒ヶ岳 火山観測点配置図

※ 資料は気象庁のほか、北海道開発局、北海道、北海道立地質研究所及び森町のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

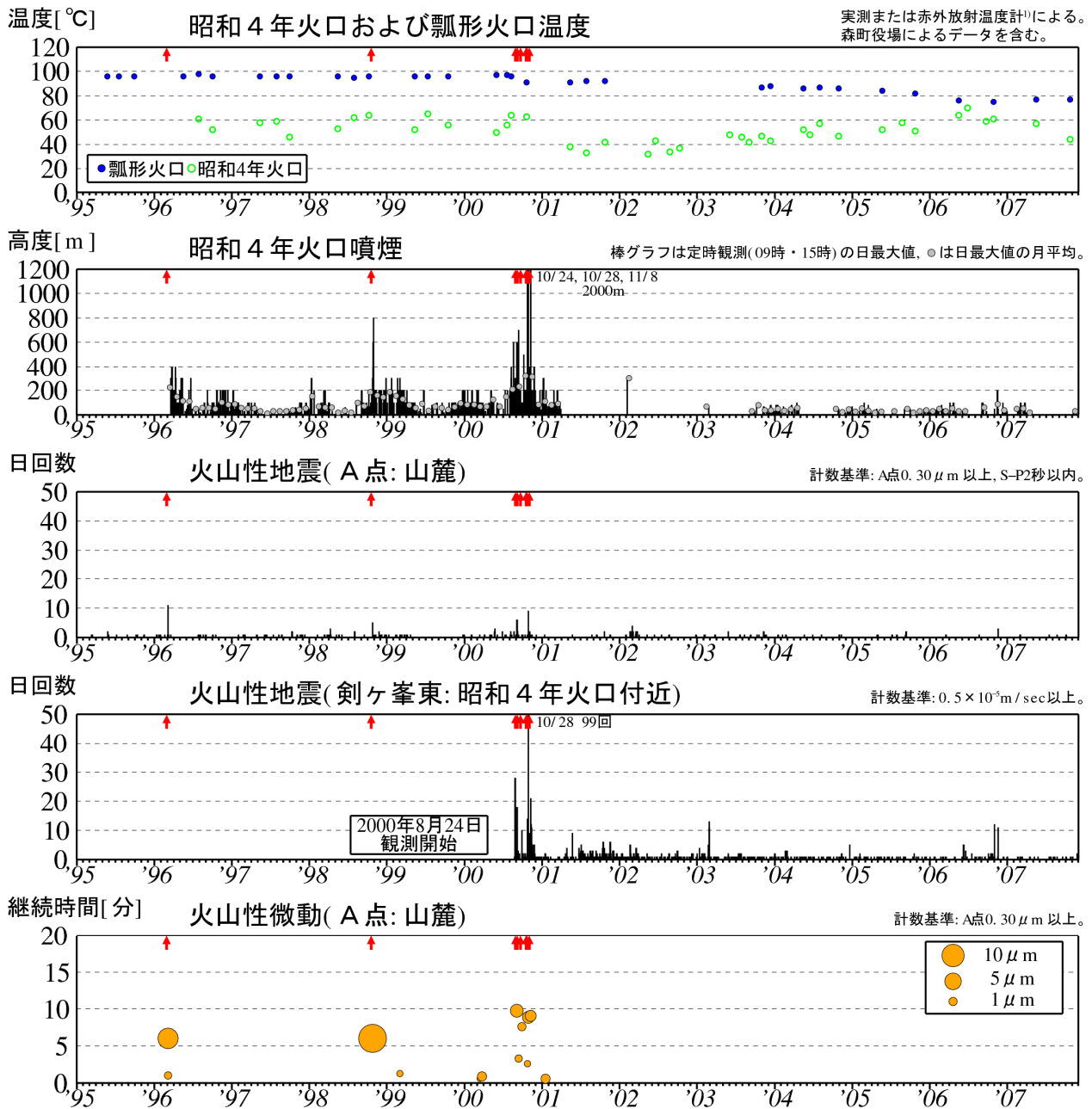


図 2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 11 月）↑印は噴火

- ・昭和4年火口では2003年9月以降10～50m程度の噴気が時々観測されています。
- ・昭和4年火口の火口温度は、2002年以降緩やかな上昇傾向が認められていましたが、2006年秋頃からはほぼ横ばいの状況となり、2007年10月の観測では温度の低下が見られています。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数（A 点：図 3 の KOMA、剣ヶ峯東：KGMH）

2006～2007 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
A 点地震回数	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0
剣ヶ峯東地震回数	3	2	1	4	1	2	0	3	4	1	2	3
A 点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

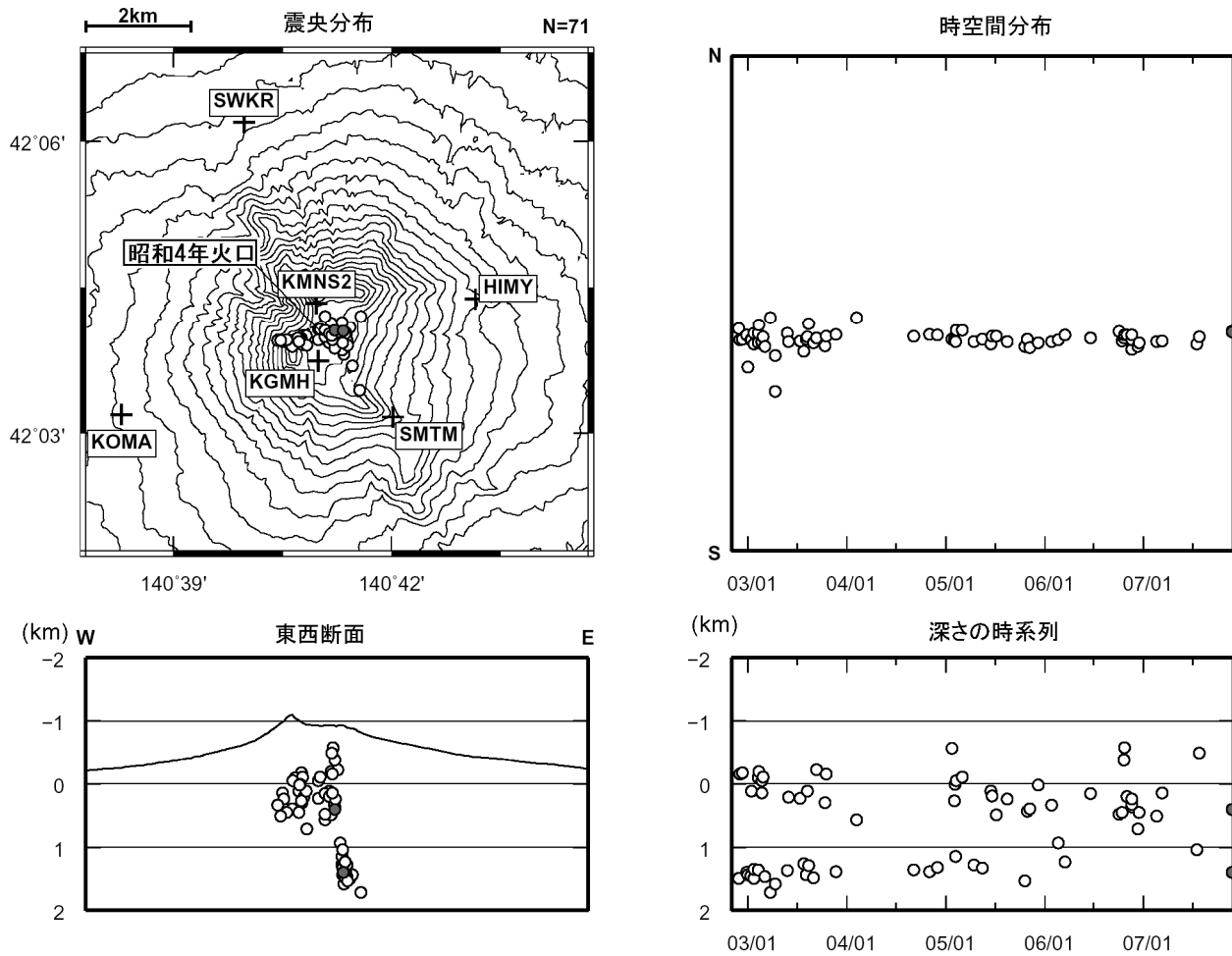


図 3 北海道駒ヶ岳 震源分布図（2002 年 11 月～2007 年 11 月、+は地震観測点）

●印は今期間（2007 年 11 月）の震源

○印は 2002 年 11 月～2007 年 10 月の震源

- ・ これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ約 1～3 km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源も、概ねこの領域内に分布しています。

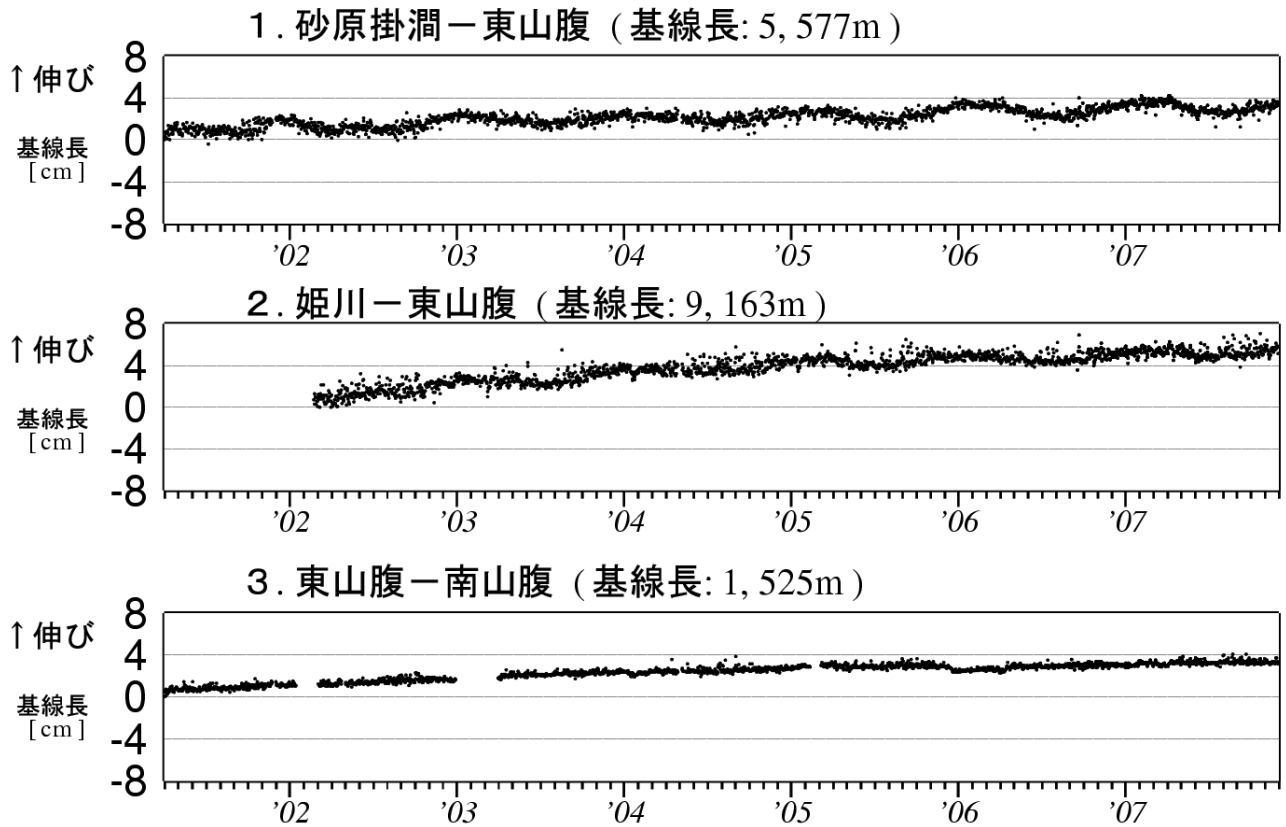


図 4 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 4 月～2007 年 11 月）
グラフの空白部分は欠測

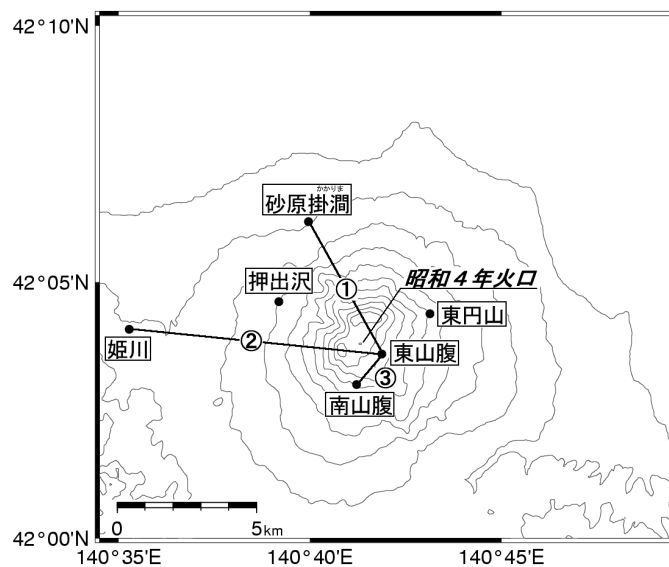


図 5 北海道駒ヶ岳 GPS 連続観測点配置図

- ・ 図 4 の 1～3 は、図 5 の GPS 基線①～③に対応しています。
- ・ GPS 連続観測では季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。